

## 5.1 不等式の性質

実数の大小関係に関する次の法則が成り立つ..

**法則 5.1.1** 任意の実数  $a, b, c$  について,  $a < b$  かつ  $b < c$  ならば,  $a < c$  .

**定理 5.1.1** 任意の実数  $a, b, c$  について以下のことが成り立つ：

$$a < b \text{ かつ } b \leq c \text{ ならば, } a < c ;$$

$$a \leq b \text{ かつ } b < c \text{ ならば, } a < c ;$$

$$a \leq b \text{ かつ } b \leq c \text{ ならば, } a \leq c .$$

**証明** 例として “ $a < b$  かつ  $b \leq c$  ならば  $a < c$ ” を証明する.

実数  $a, b, c$  について  $a < b$  かつ  $b \leq c$  と仮定する.  $b \leq c$  なので, 法則 1.5.1 により,  $b < c$  または  $b = c$ .  $a < b$  なので,  $b < c$  のとき法則 5.1.1 により  $a < c$ . また,  $a < b$  なので,  $b = c$  のとき  $a < c$ . このように,  $b < c$  のときも  $b = c$  のときも  $a < c$ . (証明終了)

(法則 1.5.1) 任意の実数  $a, b$  について,  $a \leq b \iff a < b$  または  $a = b$ .

(法則 5.1.1) 任意の実数  $a, b, c$  について,  $a < b$  かつ  $b < c$  ならば,  $a < c$ .

**定理 5.1.2** 任意の実数  $a, b, c, d$  について,

$$a < b \text{ かつ } c < d \text{ ならば } a + c < b + d ,$$

$$a \leq b \text{ かつ } c \leq d \text{ ならば } a + c \leq b + d .$$

**証明** 例として “  $a < b$  かつ  $c < d$  ならば  $a + c < b + d$  ” を証明する.

$a < b$  かつ  $c < d$  と仮定する.  $a < b$  なので, 法則 1.5.3 により

$$a + c < b + c .$$

また,  $c < d$  なので, 法則 1.5.3 により  $c + b < d + b$ , つまり

$$b + c < b + d .$$

このように,  $a + c < b + c$  かつ  $b + c < b + d$  なので, 法則 5.1.1 により

$$a + c < b + d .$$

(証明終了)

**(法則 1.5.3)** 任意の実数  $a, b, c$  について,  $a < b$  ならば  $a + c < b + c$  .

**(法則 5.1.1)** 任意の実数  $a, b, c$  について,  $a < b$  かつ  $b < c$  ならば,  $a < c$  .

実数  $a, b, c$  に対して, “  $a < b$  かつ  $b < c$  ” ということ を  $a < b < c$  というように, “  $a \leq b$  かつ  $b \leq c$  ” ということ を  $a \leq b \leq c$  というように書き表す.

**定理 5.1.3** 任意の実数  $a, b, c, d$  について,

$$0 \leq a < b \text{ かつ } 0 \leq c < d \text{ ならば } ac < bd ,$$

$$0 \leq a \leq b \text{ かつ } 0 \leq c \leq d \text{ ならば } ac \leq bd .$$

**証明** 例として “ $0 \leq a \leq b$  かつ  $0 \leq c \leq d$  ならば  $ac \leq bd$ ” を証明する.  $0 \leq a \leq b$  かつ  $0 \leq c \leq d$  と仮定する.  $a \leq b$  かつ  $c \geq 0$  なので, 定理 1.5.7 により  $ac \leq bc$ . また,  $c \leq d$  かつ  $b \geq 0$  なので, 定理 1.5.7 により  $cb \leq db$ . このように,  $ac \leq bc$  かつ  $bc \leq bd$  なので, 定理 5.1.1 により  $ac \leq bd$ . (証明終了)

(定理 1.5.7) 任意の実数  $a, b, c$  について,  $a \leq b$  かつ  $c \geq 0$  ならば,  $ac \leq bc$ .

(定理 5.1.1) 任意の実数  $a, b, c$  について,  $a \leq b$  かつ  $b \leq c$  ならば,  $a \leq c$ .

**定理 5.1.4** 任意の実数  $a$  と  $b$  について,

$$0 \leq a < b \text{ ならば } a^2 < b^2 ,$$

$$0 \leq a \leq b \text{ ならば } a^2 \leq b^2 .$$

**証明** 例として  $0 \leq a < b$  ならば  $a^2 < b^2$  を証明する.

定理 5.1.3 により, 任意の実数  $a$  と  $b$  について,

$$0 \leq a < b \text{ かつ } 0 \leq a < b \text{ ならば, } aa < bb ;$$

つまり,  $0 \leq a < b$  ならば  $a^2 < b^2$  .

(証明終了)

**(定理 5.1.3)** 任意の実数  $a, b$  について,  $0 \leq a < b$  かつ  $0 \leq c < d$  ならば,  
 $ac < bd$  .

実数  $a$  と  $b$  について,  $a^2 < b^2$  であるなら  $a < b$  であるとは限らない; 例えば,  $a = 2$ ,  $b = -3$  とすると,  $a^2 < b^2$  であるが  $a \not< b$  である.



実数  $a$  と  $b$  について、 $a^2 < b^2$  であるなら  $a < b$  であるとは限らない；例えば、 $a = 2$  ,  $b = -3$  とすると、 $a^2 < b^2$  であるが  $a \not< b$  である。しかし、 $b \geq 0$  であれば、 $a^2 < b^2$  であるなら  $a < b$  である。

実数  $a$  と  $b$  について、 $a^2 < b^2$  であるなら  $a < b$  であるとは限らない；例えば、 $a = 2$  ,  $b = -3$  とすると、 $a^2 < b^2$  であるが  $a \not< b$  である。しかし、 $b \geq 0$  であれば、 $a^2 < b^2$  であるなら  $a < b$  である。

**定理 5.1.5** 任意の実数  $a$  と  $b$  について以下のことが成り立つ：

$$a^2 < b^2 \text{ かつ } b \geq 0 \text{ ならば, } a < b \text{ ;}$$

$$a^2 \leq b^2 \text{ かつ } b \geq 0 \text{ ならば, } a \leq b \text{ .}$$

**定理 5.1.5** 任意の実数  $a$  と  $b$  について以下のことが成り立つ：

$$a^2 < b^2 \text{ かつ } b \geq 0 \text{ ならば, } a < b ;$$

$$a^2 \leq b^2 \text{ かつ } b \geq 0 \text{ ならば, } a \leq b .$$

**証明** “  $a^2 \leq b^2$  かつ  $b \geq 0$  ならば,  $a \leq b$  ” を証明する.

$b \geq 0$  と仮定する.  $a > b$  ならば, 仮定  $0 \leq b$  より  $0 \leq b < a$  なので, 定理 5.1.4 により  $b^2 < a^2$  ; つまり,  $a > b$  ならば  $a^2 > b^2$  . 対偶をとると,  
 $a^2 \not\leq b^2$  ならば  $a \not\leq b$  .

法則 1.5.2 により,

$$a^2 \not\leq b^2 \iff a^2 > b^2 , \quad a \not\leq b \iff a > b ,$$

従って,  $a^2 \leq b^2$  ならば  $a \leq b$  .

つまり,  $b \geq 0$  とすると,  $a^2 \leq b^2$  ならば  $a \leq b$  . 故に,  $a^2 \leq b^2$  かつ  $b \geq 0$  ならば,  $a \leq b$  . (証明終了)

(定理 5.1.4) 任意の実数  $a, b$  について,  $0 \leq a < b$  ならば  $a^2 < b^2$  .

(法則 1.5.2) 任意の実数  $a, b$  について,  $a \not\leq b \iff a > b$  .

例えば, 3 と 5 について  $3 < 5$  であるが, それらの逆数  $\frac{1}{3}$  と  $\frac{1}{5}$  については  $\frac{1}{3} > \frac{1}{5}$  である.

例えば, 3 と 5 について  $3 < 5$  であるが, それらの逆数  $\frac{1}{3}$  と  $\frac{1}{5}$  については  $\frac{1}{3} > \frac{1}{5}$  である. 一般的に次の定理が成り立つ.

**定理 5.1.6** 任意の実数  $a$  と  $b$  について,

$$0 < a < b \text{ ならば } \frac{1}{a} > \frac{1}{b} ,$$

$$0 < a \leq b \text{ ならば } \frac{1}{a} \geq \frac{1}{b} .$$

**定理 5.1.6** 任意の実数  $a$  と  $b$  について,

$$0 < a < b \text{ ならば } \frac{1}{a} > \frac{1}{b} ,$$

$$0 < a \leq b \text{ ならば } \frac{1}{a} \geq \frac{1}{b} .$$

**証明** 例として “  $0 < a < b$  ならば  $\frac{1}{a} > \frac{1}{b}$  ” を証明する.  $0 < a < b$  と仮定する.  $a > 0$ , 法則 5.1.1 により  $b > 0$ , 定理 1.5.8 により  $ab > 0$ , 従って定理 1.5.13 により  $\frac{1}{ab} > 0$ .  $a < b$  かつ  $\frac{1}{ab} > 0$  なので, 法則 1.5.3 により

$$a \frac{1}{ab} < b \frac{1}{ab} , \text{ つまり } \frac{1}{b} < \frac{1}{a} . \quad (\text{証明終了})$$

(法則 5.1.1) 任意の実数  $a, b, c$  について,  $a < b$  かつ  $b < c$  ならば,  $a < c$ .

(定理 1.5.8) 任意の実数  $a, b$  について,  $a > 0$  かつ  $b > 0$  ならば,  $ab > 0$ .

(定理 1.5.13) 任意の実数  $a$  について,  $a > 0$  ならば  $\frac{1}{a} > 0$ .

(法則 1.5.3) 任意の実数  $a, b, c$  について,  $a < b$  かつ  $c > 0$  ならば,  $ac < bc$ .

変数  $x$  に関する不等式とは、 $x$  の値に関する条件を表す不等式のことである。1.9 節で述べたように虚数には大小関係がないので、特に断りがない限り、不等式に表れる変数は実数を表す。それで、“実数を表す変数  $x$  に関する不等式” というべきところを多くは“変数  $x$  に関する不等式” と略す。